

～被災地再開事業所紹介～

社会福祉法人伸生福祉会

【特別養護老人ホーム長寿荘
けやきデイサービスセンター】

～人材育成による職員満足度の
向上をもって福祉文化の創造～

所在地：南相馬市

事業内容：老人福祉・介護事業



2011年3月11日、東日本大震災、福島第一原発事故により特別養護老人ホーム【長寿荘】は、緊急時避難準備区域により避難を余儀なくされた。要介護度の高い【長寿荘】利用者の避難は、自分でものを食べることが困難な方、腹部から胃にチューブを入れて経管栄養の利用者の方など、死を覚悟の上での避難となり、栃木県の介護施設に第1陣、2陣、3陣に分散いたし、入所者総勢56人が避難いたしました。

避難介護施設でのご利用者の避難生活においては、つらい時期の中、避難施設介護職員・スタッフの方々から、明日へ向かうパワーと介護サービスを届けていただき、生きて行く勇気と心温まるご支援を賜りました。避難区域の解除により、2011年11月1日より施設を再開し、46名のご利用者が【長寿荘】に戻り、入所者の皆さんと心を一つにして、職員全体で力を合わせながら、思いやり・助け合い・共に協力合せて、施設理念であります【楽しく・やさしく・共に】を踏まえ地域福祉の拠点施設として、地域から愛され、親しまれる施設づくりに取り組んでいます。

福島県相双地域介護職員等の応援事業では、平成24年7月1日から平成28年3月31日の期間、福島県社会福祉協議会が仲介し、沖縄県、九州地方、兵庫県、京都府、山形県、秋田県、北海道から総勢240人の方々を、応援職員として【長寿荘】で迎え受け入れし、介護サービスを担っていただきました。

応援職員の温かいご支援により、今日まで入所サービスの制限もせず、震災前の事業を維持し取り組むことができました。これも偏に、全国各地からの応援職員の賜物であり救いの神であり、ここに改めて深く敬意を表し感謝申し上げます。

福祉・介護事業者は、「幸せ」「感謝」という気持ちを生産する仕事であり、生産性がある限り福祉・介護は必要なものであり、超高齢社会に対応できる有為な仕事です。

生産性の高い仕事ということは、福祉・介護事業の場合で捉えてみると「サービスの提供量」に対して「利用者満足度」の割合が高いほど、福祉・介護事業における生産性の高い老人福祉施設と言えます。

介護事業所が成長産業と相俟って、介護サービスを提供しているのは、介護スタッフです。つまり介護サービスの充実、質の向上を図るためには、そのサービスを提供するスタッフ自身が自分の仕事や待遇に満足していないと、充実したサービスの提供ができないというも事実として考えられます。スタッフの「ココロの充実」「働く職場環境の改善」に取り組まなければなりません。職員満足度を高めることなしに、利用者満足につなげることは難しいです。

それでは、働く職場環境の改善・整備とは何を行えばよいのでしょうか？職場では労働基準法や就業規則が働く上での基本的なルールになります。中でも就業規則については、社会福祉法人としての組織運営において大変重要な法令・遵守になってきます。

就業規則は、社会環境に柔軟に対応できるコンプライアンスとして、必要に応じ見直し・改善も必要になってきます。働く職員・スタッフには、ルールや体制などにより、働く土台が安定し、安心して働くことができる職場づくりが何よりも不可欠であります。

その上で、良好な人間関係の構築にも取り組んでいかなければなりません。また、働き方改革による質の高い職場環境の形成には、なくてはならないものに人材育成が何よりも必要であります。

「人材育成」によってサービス提供の質を上げるということは、「ひとの質を上げる」方法の一つが研修による教育だと思います。「人材」を「人材」にするための職員教育が何よりも重要です。人材の採用、人材教育、人材育成、人材の定着の仕掛けを持って職場環境を構築いたしながら、職員満足度を高めなければなりません。

介護という仕事は新3K「希望、感動、感謝」である。ご利用者の希望を叶え、ご利用者が目標を達成したときの感動と一緒に味わい、ご利用者、家族から感謝される仕事です。少しでも多くの「希望、感動、感謝」が感じられる福祉・介護事業所づくりは言うまでもありません。

結びに、最高の社会貢献を担う高齢者施設として「よし、やってみよう」を実践しながら、地域から必要とされ、愛され・親しまれる福祉文化を創造する介護施設事業所として、発展しなければなりません。